

海津城主次第

松城代々以城主

一天文二十二年癸丑即城即普請有て山田勲入
張也海津の城と名つく元嘉清野屋妻也天文六
年信玄公即ち入

中城 小山田脩中

二、三、五

市川梅卯

原右衛門

弘治二年丙辰歳より小山田脩中在城也其後

中城

高坂隊正

二曲輪 小幡山城

天正七年戊寅年高坂隊正病死して同八年辰年
息原右郎左衛門守城なりて堀原右郎駿州沼津に在城
左海津ハ苗字存斗也

一天正十年より信玄公勝頼公二代まで三拾六年
御りちと槍ハ

一天正十年二月より織田信長公の御方に入城
駒左衛門守り但八十日と少りのるれ也

一同去年六月より上杉景勝公の御方に入城
年次田相模守上条河系交代まで守り

一慶長元年丙申年景勝公奥州会津御國替

一同年岡田丸入於慶長四年己亥年在城

一慶長四年より歳右近入西より川中流四郎を
似し治ふは時より海津を治城と名つくと云

也其故ハ信玄公の御時歳左衛門在城し其ハ信
長公時留光秀よりよりこれとせ治ふと云つて

左海川中流をすとのき中されハ左川中流の百
石左海をす討とて川中流山中お圖を極め積
り馬場味までおひかりハ左海をすかつとせり
合あり然れ山中の百石左海よりて懸つ市さる

以方由つあひあつさるといふ也左記ハ付死す
こと也右近殿権現様ハ中上りさハ秀吉
公御存念し左記左記目信州川中嶋より下金
有御約束は極は付後秀吉公ハ中上川中嶋
嶋お別也入城の最中されハハ付西の百餘人我
ハ建帳者共をそれハちのく意圖よりさうを
さそや得つらんさうハ付季の名ハせんとして
時より海津を改修城と名自給ふといふ也さて
兄のあさなりとて川中嶋の百餘人三百余人を

お山より寺庵の村よりきてよりつけあひ
路ありとて右松平忠輝公御入國より得城と
いふ左記を覚えてそれハ右近をくをゆめ我
をハ得者もあるさうハ我姓名ハ松といふ
字ハせよと作せらきて松城と書あつてせ
といふ也

一慶長八年癸卯年二月吉日松平上総父忠輝公當
城お別より他より入國ハ左の事也右近殿ハ後
一國督也付飯山ハ如安殿ハ庫格増々芋川彦
太郎を也上総父殿十三歳の御時也さる大久

保石見支配也。此時畠山又皆川山城守。畠山四
長門橋本松平高忠在城也。慶長十五年四月、
いふれと。同二月二日、越後國主堀越忠晴、奥州
岩城へ流人あり。越後松本又上総入道へ、畠
山城ハ、荒井主水在城。代古万石。

元和二年己のつゝ河のと。

家康公池田忠房より、細密に任ぜのあきま
へ、配流を越え、信長すゝつゝ河につけり。越後
郡内より、保石越前守、畠山城、慶長己ノ年ノ也。

一同年松平伊豫守、畠山城、同四年越後へ、國替。

一元和四年つちのへ年、年酒井玄月、畠山城、上召。

同八年より、在城。

同八年癸戌年、高田守信之公入城。同、上田。

一、真田家より、上田陳と、いふハ、天正十二年の事也。
母房、昌幸公、任、守信之公、在、城、つ、越、後、水、越、城、
なり。此、時、ハ、水、和、睦、なり。是、を、神、川、一、戦、と、い、ふ、也。
一、後、の、上、田、陳、と、い、ふ、ハ、慶、長、五、年、の、へ、子、ノ、年、七、
月、の、事、也。是、ハ、石、田、治、政、と、安、房、守、畠、山、同、公、と、在、
水、越、城、也。此、時、少、輔、印、を、失、い、し、り、つ、房、州、公、在、

場つ依敷高野山へ入せらる也高野山へ入

池田長門

原出羽

高梨内記

小山田治右衛門

田口久左衛門

窪田光右衛門

関口角左衛門

是ハ高野山の手に横ハ高野殿の内にすめ

高野山の手横ハ高野殿の内にすめ

関口忠右衛門

河野清右衛門

青木半左衛門

高野市之丞

石井舎人

高野市之丞

三井仁右衛門

大衛儀八

青柳清房

以上拾一人

根州大坂陳の時真田家ノ侍討死手荒ノ荒

春原玄右衛門

同孫右衛門

同半左衛門

小泉信右衛門

飯沼市之丞

高野仁右衛門

石井舎人

土肥右衛門

常田正九右衛門

常田信右衛門

高田尻

新澤主馬

忠田左京

蟻川久三郎

横谷勘右衛門

子員

録原石見

堀田亮左衛門

清水与左衛門

比田勘九郎

首取虎

原郷左衛門

畑新左衛門

岡村左衛門

湯本三左衛門

堀田彦太夫

丸山左衛門

鈴木九右衛門

矢澤但馬首七

大沢源為左衛門

云肥海左衛門

林左衛門

岡新内

堀田亮

原盛勘

湯本与左衛門

荒井刑部

山崎大膳

山崎仁左衛門

鈴木主水

児玉茂左衛門

常田高喜

堀田角左衛門

岡右近

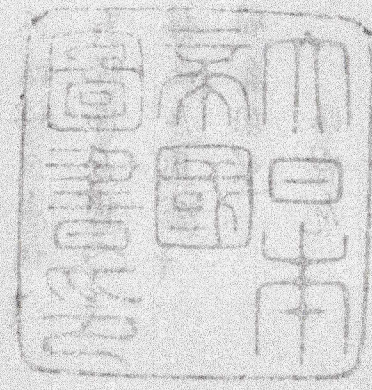
比田与左衛門

比田勘九郎

多場蔵在博つ

築田刊行

右一冊以信濃國埴科郡新代系山藩寫本
寫畢于時文化丙戌辰年春正月采山亥彼為



信濃國埴科郡新代系山藩
新代系山藩
新代系山藩
新代系山藩
新代系山藩